令和６年度　学校評価書　　大津市立比叡平小学校

※評価（Ａ，Ｂ，Ｃ）Ａ;よくできた　Ｂ;できた　Ｃ;あまりできなかった　Ｄ;まったくできなかった

番号	評　価　項　目	0			今後の改善に向けて
		自己評価	学校関係者	評価についての説明（○自己評価、◎学校関係者）	
1	主体的・対話的で深い学びを追求し、協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業改善に努めている。	A	A	○学校教育目標「つながり、学び合う」の推進に向け、「協働的な学び」を全学年で取り入れ、授業改善に取り組んでいる。授業研究会や研修に、奈良女子大学附属小学校より講師を招いて指導助言をしていただいている。また、授業の終わりに、学んだことや考えが変わったこと、次に取り組みたいことなど、視点を設けて「振り返り」に取り組んでいる。 ◎授業参観では、文章にした自分の考えを見せることには消極的な子もいるが、発言については意欲的な様子をよく見る。学年の特徴に応じた指導をこれからも期待する。 ◎例えば、４年生はクリーンセンターの見学に行って、自分たちの出すごみについて学んでいる。今後も、体験的に学ぶ機会を大切にしてほしい。	本校では、地域の人材や環境を活用した特色ある教育活動を展開している。今後も、学習指導要領に基づき児童に必要な資質・能力を育む授業改善を進め、本県が推進する「読み解く力の育成」や「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいく。
2	道徳の授業改善や日々の指導、朝読書等を通して、生命を尊重する心や公共心、公徳心等の心情を高めるとともに、道徳的実践力の向上に努めている。	A	A	○よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、教科書教材を効果的に活用しながら授業を進めている。11月には道徳参観の日を設け、保護者に理解を求めている。また、道徳の時間を要としながら、教科の授業、朝の会や帰りの会、長休みや昼休みなど、あらゆる場面を機会と捉えて公共心や公徳心の向上を目指す取組を実施してきた。また、昨年度より、多様性理解に関わる題材を用いて、発達段階に応じた学習を行っている。 ◎道徳の授業を参観した際、保護者も題材を通して考えさせられた。道徳参観を行うねらいを保護者と学校が共有できると、さらに深まるのではないか。また、学校、保護者、地域での連携に向け、講演会や研修会を検討するのもよいのではないか。	黙って集中して清掃する「黙黙（もくもく）掃除」を始めて６年が経過した。道徳の時間や全校集会等で、「なぜ、比叡平小学校に黙黙そうじがあるのか？」「黙黙そうじの良さは？」など、子どもに意義を考えさせる機会を設けることにより、黙黙掃除を今後も深く定着させていきたい。また、掃除に限らず、行動自体が目的ではなく、取組の価値や自身の心の成長についてこそ意識させていきたい。
3	体育授業の工夫改善を図るとともに、日常的な遊びや行事の中で、子どもの体力向上に努めている。	B	A	○委員会が中心となり、大なわとび大会を開催した。大会に向けて、体育の時間だけでなく休み時間にも練習に取り組む姿が多く見られた。得手不得手に関係なく、励ましあいながら、学級の記録を更新することを目指していた。楽しみながら体を動かす機会となった。また、体育でもICT機器を積極的に活用している。自分のマット運動の様子を動画で撮影し、その場で確認して次の課題を見つけるなどである。 ◎比叡平の地の利を生かして、子どもたちは自然の中や登下校などで体を動かす機会を持てている。機敏性があると感じる。 ◎本年度、PTAが中心となって運動場を整備することができた。今後は、地域へも呼びかけながら維持していければと思う。	今後も、学校全体で一定期間共通して取り組む課題を設定していきたい。仲間との交流を図りながら体を動かすことを楽しんだり、体力の伸びを実感したりできる機会としたい。また、ICT機器の効果的な活用についても工夫していきたい。
4	職員研修、OJT等に主体的に参加し、板書やノートの工夫、ICTの活用など、学力向上のための工夫改善を進めている。「働き方改革」を意識し、校務の効率化に取り組んでいる。	A	A	○本校では、毎回外部講師を招いて授業研究を行っており、特に国語科を中心に授業づくりに取り組んでいる。対話を通じて児童が多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたり、表現を変化させたりしながら学びを深めることを目指してきた。教員自身の学びへの意欲の高まりとともに、授業づくりの奥深さを改めて実感している。今後も自己研鑽と研究に努めていく必要がある。また、ICTの活用については、校内でも研修会を設けているが、引き続き効果的に活用した授業を模索していきたい。 ◎地域のボランティアによる理科授業の支援や科学クラブの活動の支援は、学力の向上だけではなく教師の働き方改革の面からもサポートしている。これからも比叡平小学校区の強みである「豊富な地域人材」を積極的に活用した学びを期待する。 ◎職員が生き生きと元気に働いている学校は、子どもものびのびと学べる学校である。引き続き職員が生き生きと働ける職場づくりを期待する。	本校は若手教員の割合が高く、学習指導と生徒指導の両輪の研修を充実させて、人材育成を図る必要がある。放課後に研修や教材研究の時間が確保できるよう、引き続き働き方改革にも取り組んでいきたい。これからも、地域の方に支援を要請し、校務の効率化と授業の質の向上に努めていきたい。
5①	懇談会や通信、学校HP等で情報発信し、保護者や地域の理解と協力を得られるよう努めている。安全・安心な学校をめざし、防災教育、安全教育を進めている。保護者や地域人材を活用した教育活動に取り組んでいる。	A	A	○地域のゲストティーチャーを招いた授業、だいらっこの森の整備と森を活用した授業、地域講師による防災教室、理科の実験授業への支援など、地域と連携して特色ある学校づくり(グローバル・ネイチャー・カルチャー)の教育活動を進めている。また、学校ホームページを適時更新し、情報発信に努めている。 ◎今後も、地域として協力できることをしていきたい。山中比叡平学区の取組を知り、興味を持ったという他地域の人の話を聞く。今後も、地域や学校の取り組みを発信することにより、比叡平の魅力を伝えていきたい。またそのことが地域の活性化にもつながるだろう。	今後も地域や保護者と協働しながら、特色ある取り組みを継続していく。プレスリリース、学校通信、学年通信、学校ホームページなどにより積極的に情報発信していきたい。また、情報発信により、山中比叡平学区の活性化に寄与したい。
5②	保幼小中間の子どもたちの交流や合同行事、出前授業、教職員間の授業公開・合同研修等、保幼小中連携の推進に努めている。	A	A	○隣接する園（比叡平こども園）とは、主に５歳児と５年生児童による交流を行った。年間を通じて交流を深めることができ、小学校入学に向けて円滑な接続の手立ての１つとなった。カリキュラムを基にした協議も行っているが、今後も引き続いて連携していきたい。小中連携についても、皇子山中学校区内の６年生と中学生が集うＯＳＫ会議を年に数回行っている。また、中学校の教員が複数回、小学校に訪れる等の連携にも努めている。 ◎比叡平こども園と小学校が連携を密にすることで園児も保護者も安心して入学に備えることができる。職員の学習会や研修の場機会を増やすなど、今後も連携を進めてほしい。	園児と児童との交流が日常的なものとなるように、引き続き工夫していきたい。また、校種を超えた研修の機会を設けるなど、連携を密にすることにより、園児、児童、生徒理解をさらに深めていきたい。
6①	いじめや問題行動の日常的な予防と早期発見･早期対応するための生徒指導体制や教育相談体制を確立し、いのち・人権の尊重などに取り組んでいる。	A	A	○いじめ事案については、迅速に対応し、保護者や市教委と連携をとりながら丁寧に対応することを心掛けた。未然防止、早期発見、早期対応を目指すため、毎朝、タブレット端末を用いた「心とからだの健康観察」を行った。その他にも、定期的に悩みアンケートを取ったり、多様性理解を促す人権学習を行ったりした。毎週定例で、校内支援委員会（いじめ対策委員会）を開き、全教職員で情報を共有する等、小規模校の強みを生かし、情報交換を行っている。また、児童会活動として毎学期「ハッピー月間」を設け、児童が主体的に笑顔あふれる学校になるように取り組んでいる。 ◎今後も学校や関係機関と情報を共有し、早期発見・早期対応に努めてほしい。	いじめの未然防止や早期発見に努めるための取組を継続していく。また、いじめ対策委員会を毎週定例や緊急で実施する。一連の対応については、複数の教員や教育委員会とも連携し、組織対応により、丁寧に進めていく。また、小規模校ならではの強みを生かして、児童自身が主体的によりよい人間関係を築いていこうする取組を工夫していきたい。
6②	組織体制の確立、関係機関と連携した相談体制の充実等、子どもの教育的ニーズに応じた特別支援教育に取り組んでいる。	B	B	○校内支援委員会を毎週定例で開き、全教員で支援の必要な児童の情報を共有している。さらに「大津市発達障害者支援センターかほん」に研修講師の派遣を要請したり、教育相談センター、北大津養護学校、通級指導教室等の多職種巡回訪問や、スクールカウンセラーとの連携など、関係機関と協力した取組を進めてきた。 ◎今後も関係機関と連携しながら、組織的な対応をお願いしたい。また、比叡平こども園との連携も強めたり、支援の必要な児童の早期発見・早期対応に努めたりして、子どもと保護者の教育的ニーズに応じていってほしい。	今後も校内支援委員会を毎週行うことを支援体制のベースとし、関係機関とも連携しながら、小規模校の強みを生かした支援を心掛けていきたい。保護者との相談、個別の指導計画作成と活用、比叡平こども園との連携等を組織的に進め、支援の必要な児童の早期発見・早期対応に努めていく。